

平成28年7月25日

## 地域公共交通における交通事業者等との新たな連携について

～公共交通ネットワーク情報提供・移動活発化推進事業の展開を通して～

広島県地域政策局地域力創造課

参事 山田和孝

主査 藤田順子

主事 寺口真耶

### 目次

- 1 広島県の公共交通環境
- 2 移動活発化事業の創設（平成23年度）
- 3 初年度（平成24年度）の取組
- 4 交通事業者等の連携の進展①（全国菓子博連携チケット）
- 5 交通事業者等の連携の進展②（公共交通ロゲイニング）
- 6 交通事業者等の連携の進展③（バスロケーションシステム）
- 7 体系的な取組の展開
- 8 これまでの成果と課題

# 1 広島県の公共交通環境

## <地理的特徴>

- ・海まで迫った山
- ・複雑な水系
- ・多くの有人島

## <地域構造>

- ・狭い平野に点在する中小都市
- ・なだらかな山間に多くの集落
- ・中心都市への直線的なアクセス困難

## <公共交通の特徴>

- ・マイカーへの依存度が高い  
(広島市の公共交通分担率16%)
- ・生活交通におけるバス利用の多さ

広島市中心部(JR広島駅~紙屋町間約2.0kmは、全国一のバス交通量(3,800便/日)

広島県と岡山県を比較すると、広島県は、人口は約1.5倍、乗合バスの輸送人キロは約3倍

- ・鉄道や航路との結節点が多い



※国土地理院配信の地図データを使用

2

# 2 移動活発化事業の創設 (平成23年度)

生活交通対策に加え、公共交通による都市活性化の検討

## <検討の考え方>

活性化 = 移動量の純増・交通事業者の収益増  
= 交通事業者による主体的な自己改善の仕組みづくり  
(≠利用者の利便性向上)

## <事業内容の検討>

移動量を純増させる施策 ≠ 移動目的の新設  
= 移動手段の改善 = 移動障壁の除去

- ・経済的障壁 ⇒ ×料金割引
- ・肉体的障壁 ⇒ ×バリアフリー
- ・時間的障壁 ⇒ ×スピードアップ
- 乗換の改善

3

### 3 初年度（平成24年度）の取組

#### <考え方>

- ・具体的な検討や取組の実施が可能な体制や機運をつくる。
- ・従来の利用促進・利便性向上の取組の壁を超える。

#### 組織体制



- ・陸海空の交通事業者の参画
- ・実務担当者レベルでの構成
- ・2階層での検討（検討会とワーキング会議）

#### 取組内容



##### ①乗換検索の充実

- ・県内交通事業者からCP事業者への交通情報（ダイヤ・料金）の提供

##### ②具体的な乗換の改善

- ・乗換検索情報の分析による気づかなかった課題の掘り起し
- ・具体的な乗換改善の実行

#### 進め方



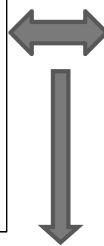
- ・月1回ペースでワーキング会議を開催
- ・乗換検索データの分析等により、交通事業者にとって新しい認識となる具体的な課題を提示
- ・実施可能な乗換改善には即時着手（案内板の移設等）

4

### 【コンテンツプロバイダ業者への公共交通情報の提供について】

#### <ICTの発達>

- ・スマホの急速な機能向上、普及
  - ・アプリの急速な発展
  - ・乗換検索の利用拡大
- ※「検索できないところは、移動先から除外」する  
移動行動も見受けられるような状況



#### <乗換検索の状況>

- ・鉄道中心のシステム
- ・大都市圏中心の情報収集
- ・地方の交通事業者に対し、東京のCP業者が個別に情報提供を依頼

#### <取組の考え方、方法>

- ・公共交通ネットワークは、**移動の全行程**が検索可能とならないと移動を促進できない
- ・地方の公共交通情報の提供を、**全交通モード**において徹底的に促進することが必要
- ・特に、地域公共交通の“毛細血管”とも言える**バス交通**の情報提供の促進が重要
- ・技術が急速に発展する中で持続可能性を持たせるためには**CP業者**との連携が適切



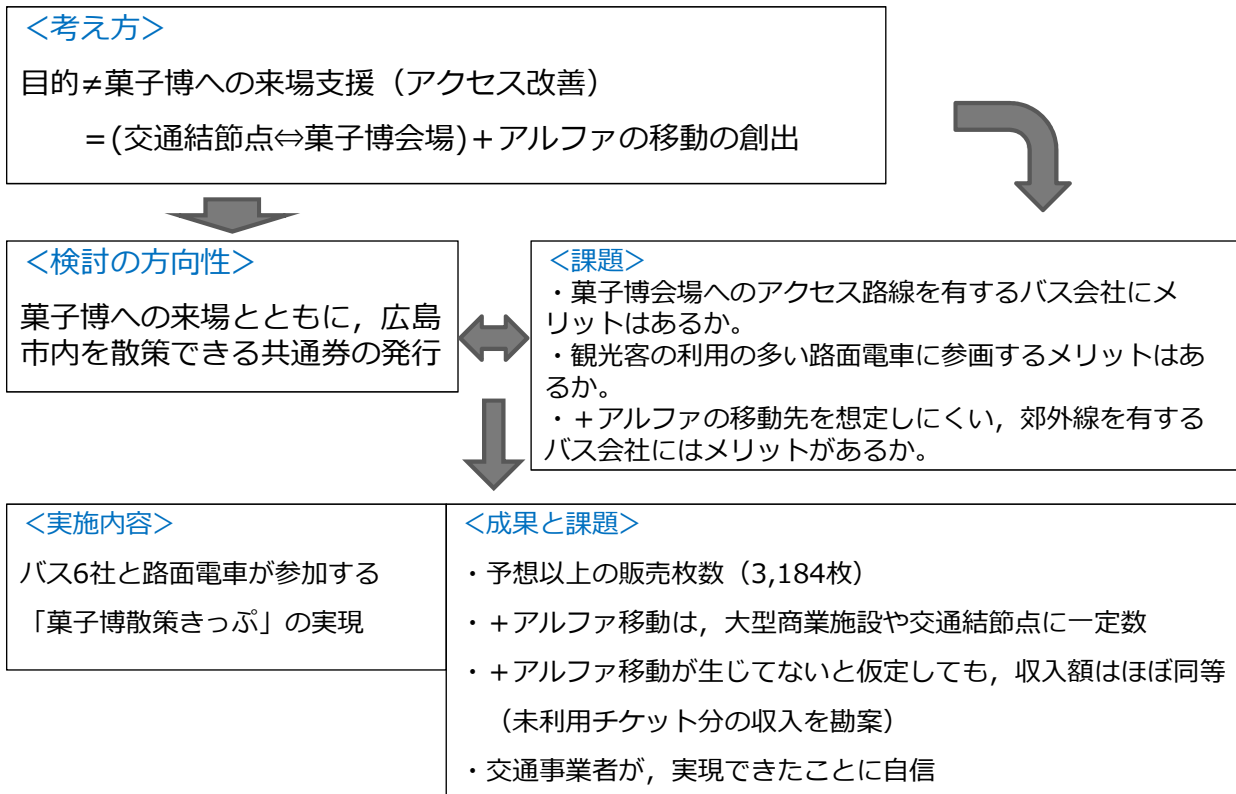
#### <成果>

- ・検索可能路線の増加  
(鉄道100%⇒100%, バス40%⇒75%, コミバス等5%⇒60%, 航路35%⇒65% ※H23⇒H27)
- ・乗換検索件数の増加  
(H25:約1,700万件/年 ⇒ H26:約2,100万件/年(前年比+23.5%) ※広島県内検索数実績)

5

## 4 交通事業者等の連携の進展①（全国菓子博連携チケット）

全国菓子大博覧会in広島開催（H25.4.19～5.12）を踏まえ、最初の連携事業を検討



6

### 【菓子博散策きっぷ 資料】

フライヤー



広島駅、菓子博会場等のチケット売り場

7

## 5 交通事業者等の連携の進展②（公共交通ロゲイニング）

### <検討の経緯>

- ・乗換検索による公共交通利用の増加策を検討
- ・旅行業者から「ロゲイニング」について情報提供
- ・地域の魅力の再発見に効果のある「ロゲイニング」を、“公共交通の魅力の再発見”として実施することを検討



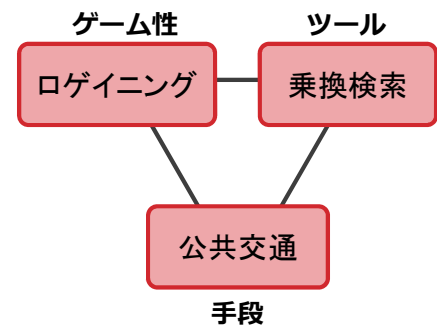
### <実施内容>

- ・バス，JR，アストラムライン，航路が参画
- ・全国初の公共交通で移動するルールで実施
- ・広島市周辺地域において，約50ヶ所のポイントを設定

### 【ロゲイニングとは？】

チェックポイントを制限時間内に効率よく回って得点を集めるゲーム

### 【特徴】



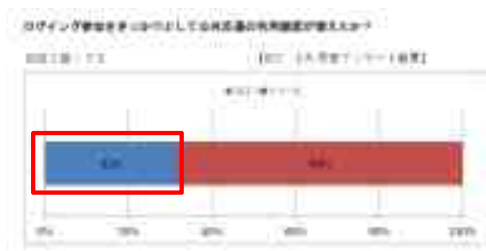
### 【公共交通ロゲイニングの実施状況】

区分	H25	H26	H27
実施日	9月16日(月・祝)	9月28日(日)	9月27日(日)
参加者数	82組 242名	111組 312名	121組 367名
主な特徴	・全国初の公共交通ロゲイニングとして実施	・家族連れでの参加を考慮し、短時間の枠を新設 ・動くチェックポイント新設	・初の試みとして各モード共通フリーチケットを導入 ・隠しポイント新設
バスマつり入場者数	15,000人	18,000人	20,000人
募集チラシ			
参加者の感想	・運転しながらでは気づかないことに気付く ・子供との会話が増える	・乗り物での移動は面白い ・イベント終了後バスを使う機会が増えた	・乗り方の勉強にもなる ・今後も公共交通を利用したい
事業者の評価	・参加者からの意見も好評でよい結果となった。 ・一方で、運賃無料での利用ということもあり特殊なイベントという印象	・あくまでもお試しというのは理解しているが、運賃の負担があるイベントとできないだろう	・イベントとしても定着してきているが、無料で続けていくこと自体は限界があるのでは ・有料化も視野に入れるべき

## 【公共交通ロゲイニングの成果】

### 成果①：イベントからの行動変容の獲得

⇒イベントの2か月後のアンケートで、  
30%近い参加者の利用頻度が増加した。  
(30~40代のファミリー層の休日利用)



### 成果②：充実した乗換検索の周知

⇒広島県において情報整備が進み便利に利用できる乗換検索について、イベントを通じて、利用実感を伴う周知が進んだ。



### 成果③：事業者間の連携強化の場として

⇒事業者間の連携が更に緊密になり、  
「広島ピースバス」など、実際の連携に  
つながっていった。



## 6 交通事業者等の連携の進展③ (バスロケーションシステム)

### 【長年の問題意識 = バスの定時制の確保】

- バス交通の最大の弱点 = 公共交通ネットワーク全体の弱点
- 乗換検索が充実しても、バスの定時性欠如により、実際の利用効果が低下



### 【乗換検索の充実の次のステップとして何ができるか】

- 県内のバス事業者が連携したシステムの導入
- 乗換検索と連動したシステムの運営



移動量の純増のためには、バス停に行く前の判断への情報提供が必要



### 【事業者連携の素地①：連携事業の積み重ね】

例：菓子博散策きっぷ、ロゲイニング、乗換検索の一体的広報

### 【事業者連携の素地②：利用者目線の課題解決意識の醸成】

例：交通結節点の案内表示を旅行者になりきってモニタリング

## 【バスロケーションシステムの導入状況】

### 【導入状況①：事業者間をまたぐ共通のシステム】

- ・ 運行事業者が違う場合でも事業者の区別なく方面別，到着順に共通フォーマットで運行状況を案内
- ・ 待ち時間，停留所の通過状況等を案内



### 【導入状況②：他のサービスと連携可能なオープンなシステム】

- ・ PCやスマートフォンでバス停から離れた場所でも運行状況の確認可能
- ・ 乗換検索コンテンツと連携し，検索結果にリアルタイム運行状況を反映



12

## 【バスロケーションシステムの導入状況と課題】

### 【導入状況】

事業主体	公益社団法人広島県バス協会
導入事業者	広島電鉄，広島バス，広島交通，芸陽バス，備北交通，HD西広島，広交観光，第一タクシー，空港リムジンバス，コミュニティバス（廿日市市，府中町）
導入状況	バス車両：1,165両，バス停表示器：68基
予算規模	約4億9千万円（平成26年度～平成27年度）
経費負担割合	国：1/3，地方自治体（広島県及び関係9市7町）：1/3，事業者：1/3

### 【課題】

- ・ 移動量の純増

利用者にとっての利便性向上効果（特に主要バス停に設置した表示板への評価）は認められるが、

スマホ利用等による移動促進が課題

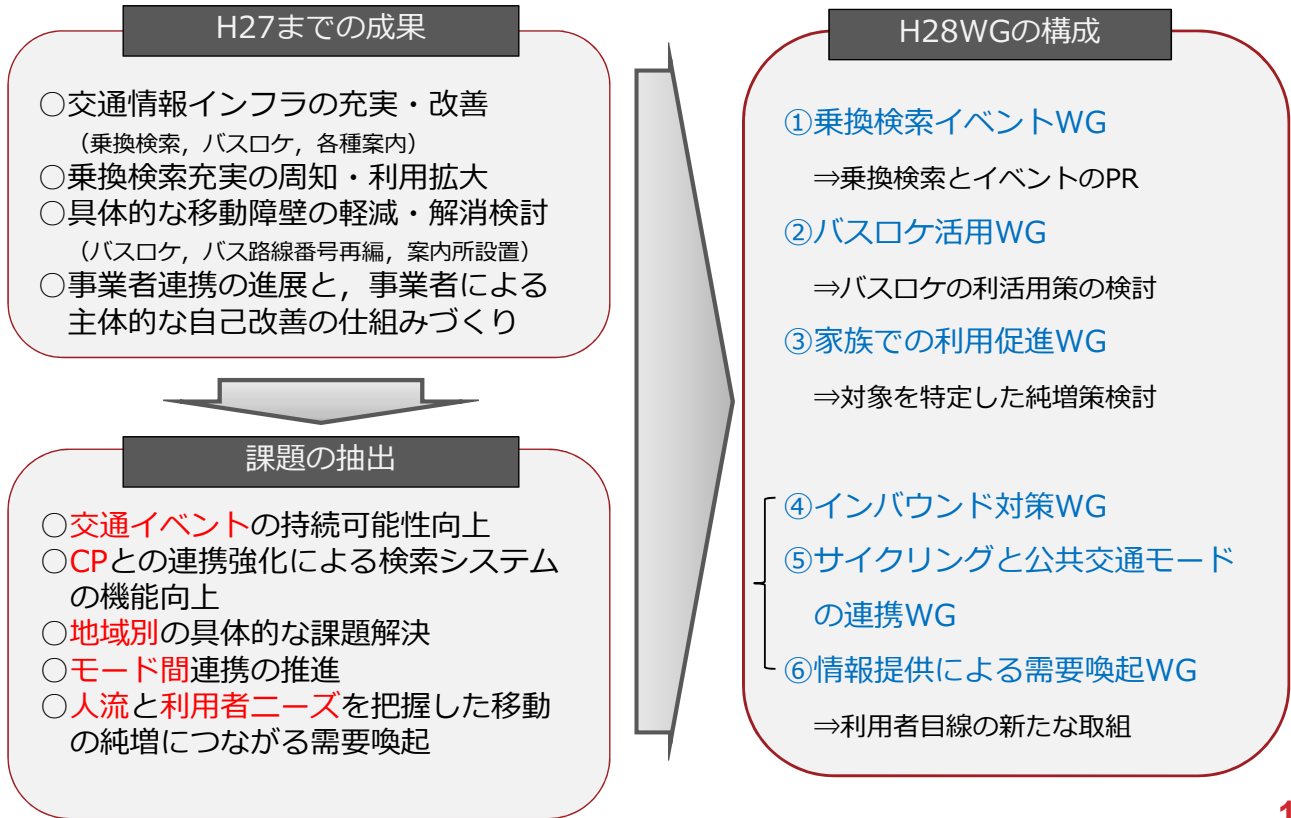
- ・ 利活用策の拡大

「幹線－支線バスの乗継」や「他モードとの乗継」への対応，ビッグデータの活用が課題

13

## 7 体系的な取組の展開

【平成28年度の公共交通移動活発化検討会における取組・課題意識】



14

## 【各ワーキング会議における取組状況①：乗換検索イベントWG】

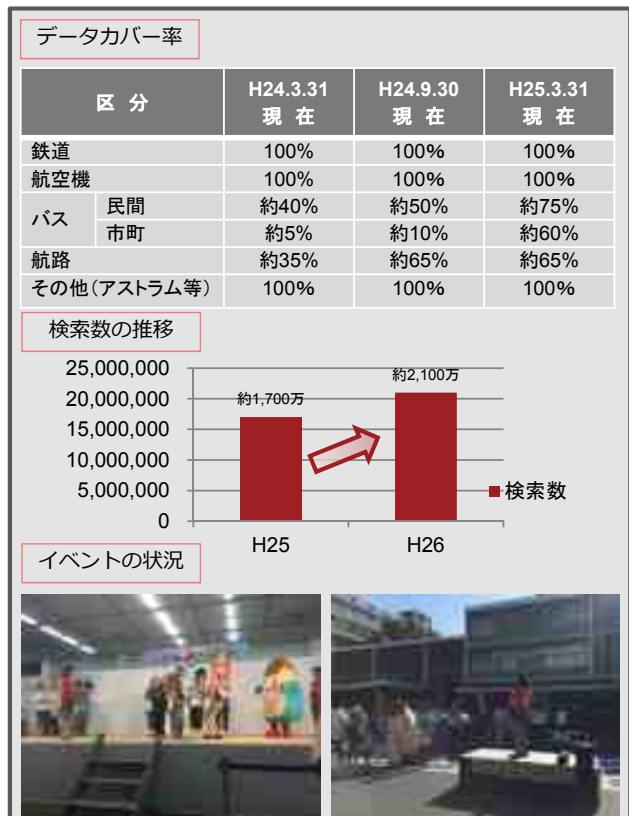
**【WG会議の構成員】**  
西日本旅客鉄道(株)・広島電鉄(株)電車事業本部・広島高速交通(株) (アストラムライン)・(公社)広島県バス協会・広島電鉄(株)バス事業本部・広島交通(株)・広島バス(株)・中国JRバス(株)・芸陽バス(株)・HD西広島(株)・広島県旅客船協会・中国運輸局・広島市・広島県

**【これまでの成果】**

- ・県内の時刻表データについて, カバー率を向上し, 検索可能路線を増加
- ・利便性向上に伴う検索数の増加
- ・イベントを活用し, 実際の利用を通じた利便性のPR
- ・イベント自体の定着

**【今後の展望】**

- ・イベントの有料化の検討 (継続性の観点から)
- ・CP事業者との連携強化



15



## 【各ワーキング会議における取組状況①：バスロケ活用WG】

### 【WG会議の構成員】

(公社) 広島県バス協会・広島電鉄(株)・広島交通(株)・広島バス(株)・備北交通(株)・中国運輸局・広島市・呉市・府中市・江田島市・広島県

### 【H27成果①】

- ・事前にシステム見学会を実施し、基礎知識を共有しつつ、多様な主体をワーキングに巻き込み

大学(都市デザイン工学, 交通工学), バス事業者, 国(運輸局交通環境部, 国道事務所), 県(警察本部交通規制課, 空港振興課, 危機管理課, 地域力創造課), 市町(交通政策, 都市計画), メーカー, CP事業者, IT企業, 交通コンサル等

- ・リソースとニーズの持ち寄り, 幅広い議論の場

### 【H27成果②】

⇒システムとしての活用アイデア

- ・支線交通との乗継
- ・ウェブ=簡易表示器
- ・データ提供のルール作り(コスト試算)

⇒プローブデータとしての活用

- ・大学の交通分析研究者にデータ提供
- 「路線バスの旅行時間信頼性とその影響要因」分析結果や考察を事例研究

### バスロケ見学会実施



### 活用のアイデア出し



### システム外モードとの乗継



### 【H28のねらい】

- ・利用者への広報強化, システム導入効果の測定を通じた利活用策の更なる拡大
- ・具体的な行政課題解決につながる事例研究(市町の交通再編調査事業へのデータ提供)

16

## 【各ワーキング会議における取組状況②：家族での利用促進WG】

### 【WG会議の構成員】

広島電鉄(株)電車事業本部・(公社) 広島県バス協会・広島電鉄(株)バス事業本部・広島県旅客船協会・(一社) 広島県観光連盟・中国運輸局・広島市・府中市・広島県

### 【WG設置のねらい】

- ・H27「女性を対象とした利用促進」としてスタート
- ・ターゲットに合わせ、交通・観光に携わる「女性スタッフ」の出席を要請
- ・「女子旅」目線で、鉄道利用とバス利用の観光モデルコース作成・現地確認

(参加事業者の声): 「女性スタッフ」が集い、その視点を活かす場自体が貴重

### 【今後の展望】

- ・女性の目線を軸に、ターゲットを絞った利用促進策を検討するWGとして継続(H28ターゲット: 家族の外出機会)
- ・WG活動そのものを情報発信の切り口として活用(交通女子の集まり「広島かぞく旅応援隊」と名付けて発信, 活動もPR)

### 女性の目線を活かす



### モデルコース現地調査



公共交通移動も案内する観光モデルコースを考案



観光ガイドに掲載



17

## 【各ワーキング会議における取組状況③：その他3WG】

### 【インバウンド対策WG】

- ・訪日外国人観光客数の増加傾向をとらえ、交通事業者と行政機関の連携強化を進めていくことを目的に設置
- ・交通事業者が販売する商品を活用し、観光ルート・広報等を企画、検討

### 【サイクリングと公共交通モードの連携WG】

- ・ターゲットの絞り込みを行い、特定の利用者の需要喚起を目的に設置
  - ・対象をサイクリストと設定し、各種交通事業者、行政関係者等が連携し、目的地（サイクリング好適地）までの移動も含め、観光ルート広報等を企画、検討
- なぜサイクリストか？…サイクリスト向けの既存の乗船・乗車割引商品等があり、目的地や行政との連携により一層の利用拡大が期待できるため

### 【情報提供による需要喚起WG】

- ・団地内でのモビリティマネジメントを実施を目的に試行的に設置
- ・具体的には、広島都市圏で昭和50年代に造成された住宅団地において、住民のバスに対する課題の分析、潜在需要の喚起等について検討

18

## 8 これまでの成果と課題

### ＜これまでの成果＞

【事業】目に見える成果としての全国最高レベルの多モード乗換検索基盤の構築

(乗換検索システム、バスロケーションシステム、スマートフォン等の情報端末の活用)

【連携】事業者間の連携が“当たり前”になり、検討会で課題解決の検討を行う事業者意識の定着

### ＜事業者間連携の進展に係る考察＞

#### 【これまで事業者連携が進まなかった理由】

- **社会傾向を踏まえた悲観的な予測**  
人口減少・マイカー利用により、何をしても公共交通利用は増えないと予測  
≠連携  
=自社・自モード中心主義
- **これまでの取組の失敗**  
これまで実施してきた利用促進策や利便性向上策に効果がなかったことから、新たな取組に消極的
- **公共交通ネットワーク全体の対応困難**  
公共交通利用促進のためには、移動の全行程をカバーする公共交通ネットワーク全体の改善が必要であるが、検討の場がない。
- **具体的事業の着手困難**  
公共交通ネットワーク全体を事業者連携によって進めるための補助制度がないため、構想がある場合でも着手が困難

#### 【本事業で事業者連携が一定程度進んだ理由】

- **現場主義的な体制づくり**  
多モードで構成しながら、小回りが利き、機動的に取組への着手ができる組織体制を実現
- **成果の積み上げによる自信の獲得**  
非予算で対応したCP業者への情報提供に始まり、抽出された課題対応で連携による小さな成果を積み上げ、事業者が自信を獲得
- **県主導のネットワーク全体への対応**  
広域自治体である県が、広域的な公共交通ネットワーク全体を見据えた協議の場を実現
- **連続的な事業実施**  
予算事業についても、データ分析から、イベント、インフラ整備まで連続的に実施し、具体的な事業者連携を促進
- **バス協会のリーダーシップ**  
ネットワーク上の課題を多く有するバス交通として、県バス協会がリーダーシップを発揮

19

## 【課題と今後の方向性】

- 連携による成果の積み重ねにより、**連携意識が定着**し移動活発化検討会の求心力が向上
- 情報インフラの整備をはじめとした、**広い層へ働きかけていくステージは終了**
- 今後は、**ターゲットを特定**したより具体的な検討を進めていく必要
- 枠組みとしては、事業者・行政とともに、公共交通の**受益者（都市中心部や交通結節点の商店街等）との連携を促進**



本当の意味での**“移動の純増（収益増）”**を図る。



## 広島県公共交通移動活発化検討会における平成28年度事業体系

